

博物館 Dictionary No.179

◆あなたに語る・時代を超えて生きる心◆

大阪・金剛寺の「大日如来坐像」について勉強してみよう。

大日如来坐像

どこにあったの？

金剛寺は大阪府河内長野市にある真言宗のお寺。真言宗は平安時代に空海（774-835）が唐（今の中国）から伝えた密教を宗旨とします。空海が高野山に金剛峰寺を開いたことは教科書で勉強したでしょう。河内長野は大阪府の南端、和歌山県に接していて、京都から金剛峰寺に行く途中にあります。鎌倉時代の終わりから、南北朝時代のはじめにかけて後醍醐天皇が滞在したこともありました。後醍醐天皇や楠正成はこの像を拝んだはずです。

この像が置かれていたお堂は現在修理中で平成29年頃までかかります。その間、博物館でお預かりしているのです。

大日如来とは？

インドではマハーヴァイローチャナという仏です。マハーは大きい、ヴァイローチャナは隅々まで照らすという意味、つまりお日様。宇宙の中心にあって、



大日如来坐像

世界を照らし、恵みをもたらす存在です。日本では訳して大日如来と呼びます。

ほかの如来（釈迦如来、薬師如来、阿彌陀如来など）が装身具を着けない質素な姿なのに、大日如来は宝冠をいただき、ネックレス、イヤリング、ブレスレットなどを着けて飾っています。仏教の最高位である如来の中でも特別な存在なのです。

身体の色

大日如来の髪の毛を除く体、身に着ける衣のすべて金色に輝いています。人間を超越した聖なる存在であるしるしです。この像は木で造られています。その上に漆を塗って、金箔を貼っているのです。

なぜこんなに大きいのか？

大日如来は頭の上にまげのようなものを結っていて（冠にかくれて見えませんが、2階から見るとわかります）、そのてっぺんで測ると3メートル14センチ。

お経には如来の身長は4メートル80センチとあります。日本の昔の単位で言うと1丈6尺です（1丈は約3メートル、1尺は約30センチ）。省略して丈六と言います。坐っている像は立っている像の半分の2メートル40センチが丈六となります。この像は、額の上の髪の毛の生え際で測ると2メートル40センチほど。実は髪の毛の生え際で測ることが多いのです。

三十三間堂の中央の千手観音坐像、平等院鳳凰堂の阿弥陀如来坐像も丈六です。

忍者のような手の形(智拳印)は？

左手は人差し指だけ立てて他の指は握っています。親指の先はほかの指の中に入れます。右手で左手の人差し指を握りますが、右手の人差し指は一度伸ばしてから曲げます。親指は他の3つの指の中に入れます。右手の人差し指は親指に接するように曲げるのです。



智拳印

いつ造られたの？

このお像を安置する金剛寺のお堂は平安時代の終わりころ、1178年に建てられたという記録があります。造るのに必要な費用を出したのは鳥羽天皇の皇女、八条院です。

この像は堂と同じ時期に造られたと考えられます。やさしい顔、太っていない身体、ゆったりと組んだ脚、下半身にまとう布のしわが浅めで平行にあらわされていることなど平安時代後期に貴族たちの間で好まれた穏やかな姿です。仏像の姿形には流行があって、時代によって変わります。

誰が造ったの？

仏像を造る彫刻家のことを仏師と呼びます。日本では飛鳥時代、7世紀に法隆寺金堂の釈迦三尊像を造った止利が名前の知られる最も古い仏師です。鎌倉時代の仏師運慶、快慶の名前は聞いたことがありますか？

鎌倉時代以降の仏師が元祖として尊敬するのは定朝という仏師です。1053年に平等院鳳凰堂の阿弥陀如来坐像を造った人です。当時の貴族たちに高く評価され、工房を構えてたくさんの仏像を造りました。定朝の弟子たちが3つの工房に分かれました。運慶、快慶が属する慶派もそのひとつです。ほかに院派、円派があります。それぞれ「慶」「院」「円」の字を名前に付ける人が多いので、こう呼んでいます。この大日如来坐像は貴族の注文で造られたので、この3つの工房のどれかが造ったことは間違いありません。

光背に注目

像の背後に立っているものを光背と呼びます。像が発する光を表現したものです。良く見ると小さな仏像が30体以上も付いています。この小像は鎌倉時代に造られたものです。何も書いていませんが、姿形でわかるのです。面白いポーズの像がありますから、探してみてください。

(上席研究員兼企画室長 浅見龍介)